

総括討論：座長所見——オーストラリア社会の多様性と相互作用——

山中雅夫 (追手門学院大学)

まず、分科会 A (オーストラリアの経済をどう教えるか——経済成長の背景を理解させる教授法——) の総括を松繁教授に求めたところ、報告内容 (日豪貿易関係, 日豪米経済統計比較, 保護貿易政策の変遷等) についての議論の推移は省略するとし、分科会 A における議論が示唆する要点として「オーストラリアは進化に成功した国である」という認識をもつことの重要性を強調された。近年の活力あるオーストラリア社会経済の現況に照らし合わせると興味深い指摘であった。

次に分科会 B (オーストラリアの社会・生活を教えるには——映像を使つての教授法——) の総括として福嶋教授は、さまざまな条件・限界があるとしても「映像を使つての教授法の有用性・可能性」への共感・共鳴を述べられた。講演者の映像選択の確かさと講演者が自ら開発した教育指導方法の先導性が、参加者にも大きなインパクトを与えたと思われる。

分科会 A・B の総括を受けて、総合司会の山中からのコメントとして、「映像を使用する教員のオーストラリアについての総合的な理解力・分析力のレベル」についての言及があり、この点をめぐつてのフロアーとパネラー間での議論の要点は次のようなものであった。「教材としての映像が強烈なインパクトを与えるものであればあるほど、画面に現れた現象が表層的に一般化される危険性がある。しかし、映像に示された現象の背景にある歴史、地理、政治、経済、社会、文化、教育、地域、家庭環境など広い脈絡からみた視座があれば、映像を使つての教授法は、単にオーストラリアへの理解を深めるのみではなく、ものごとを広く深く考えることの重要性を認識させ、考える力を養成する訓練としても大いに有効性をもつと思われる」。これらの議論を通して、オーストラリアを教える先生の技量アップとして、幅広い視野でのオーストラリア理解の重要性が再認識された。その点からも、今回のワークショップ開催の意義が再評価されることとなった。

さらにフロアー、パネラーから、教授法研究、教材研究、留学、研修など、さまざまな形でのオーストラリア教育の展開の実例、可能性についての議論が加わり、45分という総括討論時間の制約の中であつたが、とくに中学校、高等学校における異文化教育理解の対象としてのオーストラリアの有効性についての認識が参加者の間に広く浸透したのではないかとと思われる。

最後に、総合司会者山中から、オーストラリアを理解する上でのキーワードとして、「多様性と相互作用」が有効ではないかとのコメントがあつた。近年のオーストラリアにおける社会経済の活力の根源をたどっていけば、連邦国家制、160を超える人種、技能者移民の受け入れ、活発な国内移民、積極的な留学生、旅行者受け入れ等に見られるように、オーストラリ

ア社会の多様性と相互作用にたどり着くのではないかという分析である。この観点は、分科会 A の総括「オーストラリアは進化に成功した国である」（松繁教授）に合致すると思われる、とのまとめで総括討論を終えた。